

「参議院選挙後の情勢と平和運動の課題」
～講演要旨～

敵基地攻撃を担う長距離ミサイル部隊が空自百里基地へ配備され、部隊もつくりながら戦争国家づくりが一層進み、危険性の質が変わった。空自・教導群がいる小松基地の存在がポイントになる。

沖縄・九州を中心に米海兵隊+陸自の最大訓練が実施され、東シナ海でも米韓+海自・空自の共同訓練。そして、米陸軍+陸自に豪陸軍が加わった新潟・関演習場など6カ所で様々な訓練が行われている。そして、防衛費26年度概算要求は総額8兆8454億円と過去最高になった。

平和委員会は、先の定期大会で「わが町運動」を呼びかけたが、「戦争の拠点にするな→平和の拠点に」とした。

安倍政権による戦争法で、わが町の自衛隊基地が、海外でのアメリカの戦争に動員される現実的危険が生まれた。さら

に、岸田政権による安保3文書は敵基地攻撃を容認し、専守防衛から自衛隊が変質した。国家防衛戦略で、防衛力の抜本的強化を補完するには、政府と地方公共団体、民間団体などと協力が不可分と明記した。

こうした中、「わが町運動」は、安保3文書に正面から立ち向かう意義がある。さらに、自衛隊は防災訓練やイベントなどで浸透を図り、教育現場でも職場体験会が行われている。一方、静岡では原爆展・戦争展を10ヵ月のロングラン開催。すべての中学校で原爆展を開催した岐阜・関市。群馬・渋川では戦争体験を聞く教室から戦跡巡りへと発展した経験が生まれている。

そして、日本平和大会のパンフを使った学習や、わが町の代表を大会に。各地のわが町運動をオンラインで視聴しようと呼びかけました。

のギャップを痛感。コロナ禍で対面集会が企画できなかった」「活動の可視化が重要」「初めて参加して各地の取り組みを知り、仲間づくりに頑張る」。「平和委員会の魅力とは何かを模索してきたが、活動を通じて満足感を感じてもらうことに思い至った」などなどの発言があり、県平和委員会の活動に参考すべき視点がありました。

また、「自衛隊名簿提供訴訟」を支援する会事務局長の河戸氏が裁判の意義と署名を呼びかけました。



金沢に旧陸軍の遺跡
伝えよう

戦後80年企画の一環として、8月31日「金沢城公園内と兼六園周辺の戦跡巡り」を行いました。柴原和美事務局長は城内に旧陸軍の第九師団司令部が置かれ、その下に旅団・連隊が組織されたと概要を解説してスタート。

2007年に県平和委が製作したのマップを片手に、大手門前に建つ「第七連隊記念碑」＝面会所～「第六旅団司令部庁舎」＝シンボルの☆マーク～金大薬草園跡の「日露戦争記念碑」～被服庫に利用された「国宝・鶴丸倉庫」～石垣をくり抜いた「弾薬庫跡」へ。

兼六園周辺に移動し、文化財修復工房＝「第九師団長官舎」～移築されて国立工芸館になった「偕行社」＝将校の遊び場と「第九司令部庁舎」～赤レンガは、かつての金沢美大校

舎＝「兵器庫」とその隣に「出羽町練兵場」の門扉が残っています。そして、石川護国神社前



に建つ「大東亜戦争聖戦大碑」＝写真＝へ。その向い側に「清水澄博士の碑」があり、山野健治代表理事は「平和憲法制定を憂えて身投げした金沢出身の学者で、東山に生家跡の石碑がある」と解説。

柴原さんは「いくつかの案内板から旧陸軍の施設であったことが削除されている。私たちは、戦跡巡りを通じて戦争の歴史を伝えなければならない」と語りかけました。

猛暑の中、会員外も含め12人の参加があり、Mさんは「戦跡巡りは2回目だったが、弾薬庫跡を初めて知った。空襲に遭わずに残された金沢の戦争遺跡を後世に伝えたい。それにしても、地球上で戦争が続いている。私の力は小さいが寄せ集めれば政治を動かせると思っている」と、感想を伝えてくれました。（藤田克彦）

高校生に核兵器についてシールアンケート

2回目となる「シールアンケート」を、9月9日に西金沢駅前では初めて行いました。3名が参加して、高校生の下校時に合わせて15時30分から約30分行いました。

ニュース フラッシュ

- 8月7日～9日 原水爆禁止世界大会・長崎
- 13日 「怒りの昼デモ」
- 30日 石川憲法会議の「総会」
- 31日 「金沢城公園内と兼六園周辺の戦跡めぐり」12人が参加し、柴原事務局長がガイド
- 9月3日 憲法会議などがエムザ前で街頭宣伝。夕方、アルコ前でなんぶアクション合同スタンディング
- 9日 県原水協「6・9署名」行動。西金沢駅前、高校生を対象に「シールアンケート」に取り組む
- 10日 「怒りの昼デモ」雨のため中止
- 15日 エムザ前で「沖縄の支援・連帯」街頭宣伝
- 18日 石川民医連の職員研修で柴原事務局長が内灘の「砂と風の館」、小松基地をガイド。25日も実施
- 20日・21日 平和委員会「北陸信越ブロック交流集会」が志賀町・いこいの村で開催

アンケートは核兵器の完全禁止と廃絶を定めた核兵器禁止条約に日本は①参加すべき②参加すべきではない③わからない



の三択でシールを貼ってもらいました。呼びかけに応じてくれた高校生15名全員が参加すべきに赤いシールをペタリ。でも、「核兵器禁止条約」のことは知らないが、核兵器は絶対ダメときっぱり言っていました。一方、見向きもせずさっと通り過ぎる生徒もいました。

孫と会話するように

先日行われた平和委員会北陸信越ブロック交流会で報告された富山や長野の経験から回数を重ねて、顔なじみになり気軽に声を掛けられる関係づくりが必要だと思いました。また興味を持って見てもらえるチラシなどを手渡せるとよいと思いました。これからの課題です。（村中香子）

“平和の仲間づくり”
を進めよう！

会費は月/350円。平和新聞は毎月3回発行 470円。

月間の運動誌/300円です。